

モデルプログラム M-3 現場における実践－授業観察の前に－

ねらい	現場実習や授業観察にあたり、事前に留意点を学び、実習／観察での学びをより豊かにするための準備をする。
対象	<input checked="" type="checkbox"/> 教師を目指す学生（教員養成課程他） <input checked="" type="checkbox"/> 日本語教育を学ぶ学生 <input type="checkbox"/> 現職日本語指導担当教員 <input type="checkbox"/> 現職一般教員（管理職含む） <input type="checkbox"/> 管理職 <input type="checkbox"/> 指導主事 <input type="checkbox"/> 日本語支援員／母語支援員
経験（日本語指導・外国人児童生徒教育）	<input checked="" type="checkbox"/> 経験なし <input type="checkbox"/> 1年目 <input type="checkbox"/> 2-4年 <input type="checkbox"/> 5年-9年 <input type="checkbox"/> 10年以上
高めたい資質・能力	<input checked="" type="checkbox"/> 捉える力（子どもの実態把握） <input type="checkbox"/> 捉える力（社会的背景の理解） <input checked="" type="checkbox"/> 育む力（日本語・教科の力の育成） <input type="checkbox"/> 育む力（異文化間能力の涵養） <input type="checkbox"/> つなぐ力（学校作り） <input type="checkbox"/> つなぐ力（地域作り） <input type="checkbox"/> 変える／変わる力（多文化共生社会の実現） <input type="checkbox"/> 変える／変わる力（教師としての成長）
主な内容	M 現場における実践
活動形態	<input checked="" type="checkbox"/> 講義型 <input type="checkbox"/> 活動型 <input type="checkbox"/> フィールド型 <input type="checkbox"/> 実習
時間	60 分
流れ（・項目）	活動（◇活動の工夫）
1. 教員・支援者としての行動規範を知る（15分） ・教員の倫理（M） 2. 実地研修を行う教室を理解する（30分） ・校内の指導体制（C） ・実態把握（I） ・対象児童生徒の多様性の理解（M） 3. 実施記録の観点と書き方を知る（15分） ・実践・実施記録の作成（M）	1. 教員・支援者として子どもに接する場合の留意点を話し合い、以下の点について確認する。 ・ 守秘義務 ・ 態度 ・ 子どもとのコミュニケーションの取り方 ・ 文化の違いへの配慮（身体接触等） ・ 教員・支援者としての責任 2. 実地研修を行う教室の担当教員の話聞き、現場の概要を知り、その特徴を理解する。 1) 実地研修を行う地域の在住外国人の状況、学校全体、当該教室の在籍数などについての説明を聞く。 2) 在籍する外国人児童生徒等の背景を想像する。 3) 在籍する外国人児童生徒等の日本語習得状況についての説明を聞く。 ◇担当教員が参加できない場合には、授業・研修担当者が聞き取ったうえで伝達する。また、可能であれば、個人情報に留意したうえで児童生徒の状況に関する資料を提示することも検討する。 3. 実施記録の観点の説明聞き、書き方を確認する。
備考	・ 実地現場の見学や実習の準備として行うことを想定している。